

松江市 電子図書館の検討



令和7年9月1日 図書館協議会説明資料

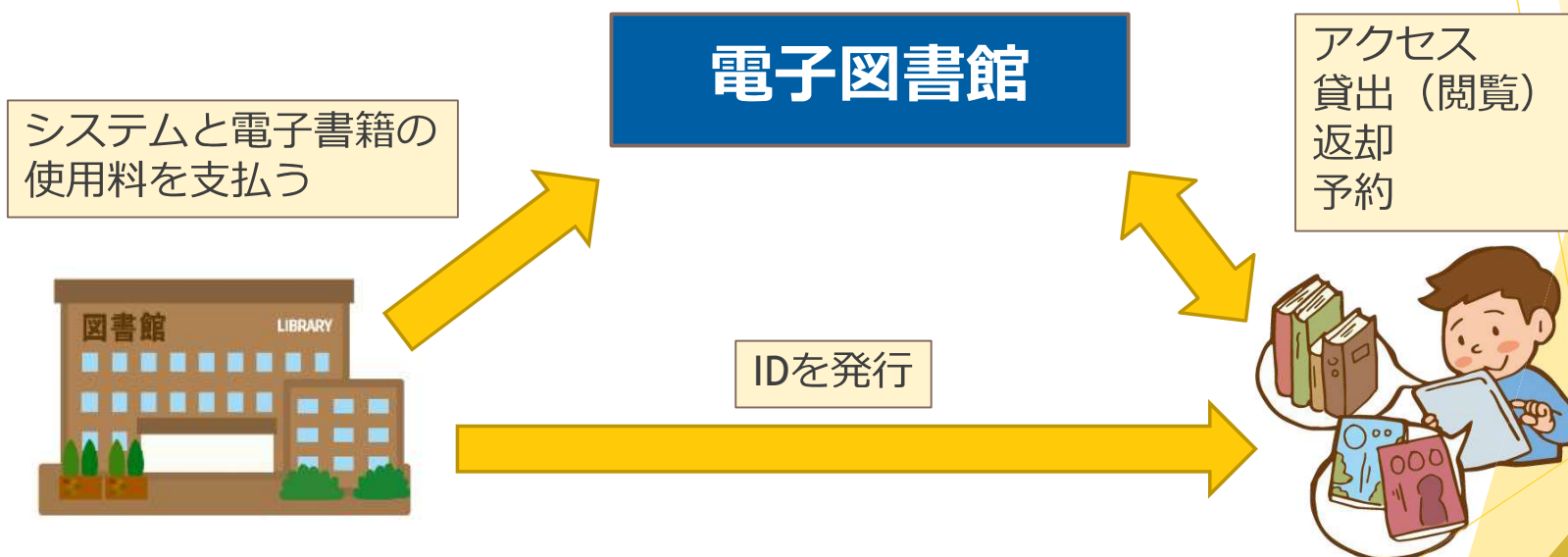
松江市教育委員会 図書館事務局作成

もくじ

- 電子図書館とは
- なぜ電子図書館の導入を検討するのか
- 全国・先進地の状況
- 導入するうえでの方向性
- 松江市での導入案（事務局案2つ）
- （参考）先進地事例
- スケジュール・参考予算

電子図書館とは

スマートフォンやタブレット、PCなどの端末を使って
インターネット上で電子書籍を貸し出し・閲覧するクラウドサービス

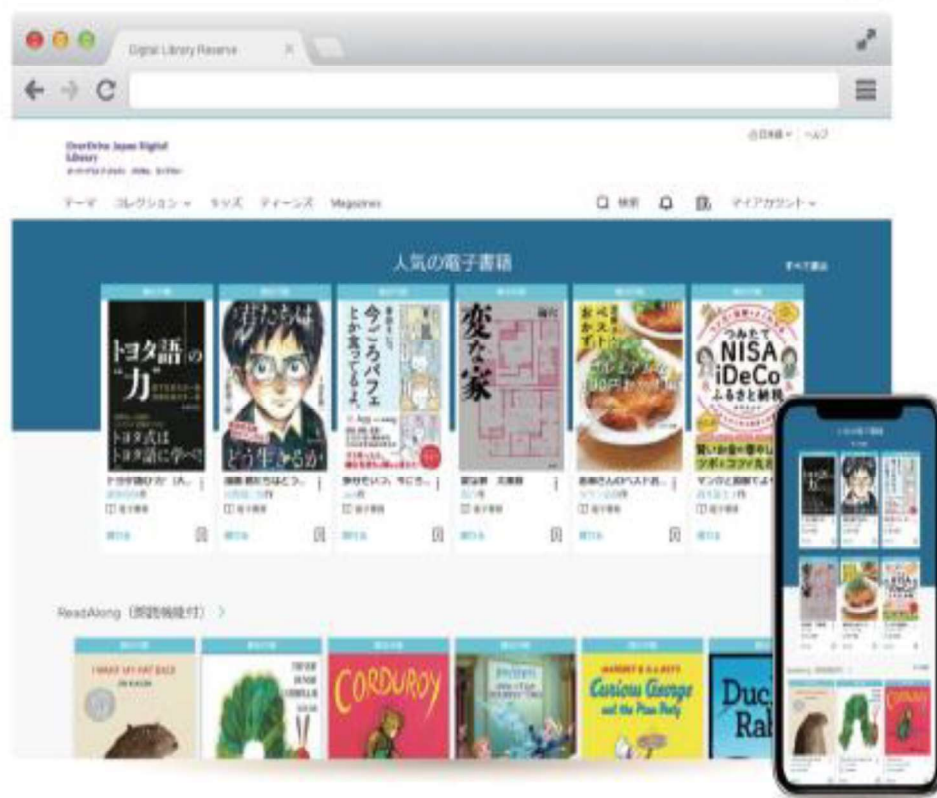


電子図書館

≠

民間の電子書籍サービス
電子書籍を「購入」して読むもの
アマゾンキンドル、楽天ブックスなど

電子図書館とは①



本を探す

- 電子図書館サイトの検索機能で借りたい本を探せます。

借りる/予約する

- 借りた本は利用者自身の端末で閲覧することができます。
- 他の利用者がいる場合は貸出予約を行うことができます。
- 貸出可能になると自動的にメールで通知します。

返却する

- 貸出期限が過ぎると自動的に返却されます。

〇〇電子図書館



(LibrariE & TRC-DLの例)

資料を借りる

<利用者>

- ・電子図書館のサイトからログインして、読みたい本をその場で読むことができる
- ・試し読みもできる
- ・貸し出し中の資料は予約もできる
- ・リアルな図書館とは違い「本文検索」ができる
(リアルな図書館はキーワード検索)
- ・文字サイズの変更・白黒反転・音声読み上げ・読み上げ場所のハイライトなど、通常の表示では読みにくい人や、目で読むことが困難な人等にも配慮した機能がある

<図書館>

- ・リアルな図書館とは違い、全て表紙が見えるため興味を惹きやすい
- ・トップページには「新着図書」や「ランキング」などの特集コーナーを作成できる
- ・リアルな図書館とは別に、貸し出し規則を設定可
(同時貸出は「〇冊まで〇週間」)

資料を読む

① 本文内検索
本文内で検索したいワードを検索。検索結果を選択すると、該当ワードを含むページにジャンプします。

② 目次
出版社が目次を設定している場合、該当のページに移動することができます。

③ マーカー
マーカーを付けた所が記録されます。

④ しおり（付箋機能）
任意のページにしおりを挟むことができます。

⑤ メニュー

①フリックでページをめくる

②タップ
or
クリックで
ページを
めくる

ページを任意の場所に移動することができます。

文字サイズ

行間

余白

書体

ルビ

テーマ

設定

初期設定に戻す

- ・ **文字サイズ**：文字サイズを変更することができます。
- ・ **行間**：行間を設定できます。
- ・ **余白**：上下左右の余白を設定することができます。
- ・ **書体**：フォントを選ぶことができます。
- ・ **ルビ**：ルビの非表示を選択できます。
- ・ **テーマ**：背景色を選ぶことができます。

※画面の右側または左側をクリックするとページをめくることができます。

書籍によって、文字サイズの変更ができない電子書籍がございます。（レシピ・ガイドなど）

(Over Drive
タブレット・スマホ版の例)

アクセシビリティ（読書バリアフリーへの対応）

「あっ、そうなの！……この方かしら？」

ジェルボワ氏は軽くうなずいた。人を出し抜いて掘り出し物を手に入れたかと思うと、ますます嬉しくな

って店をあとにした。

ところが、通りをものの十歩と行かないうちに、さっきの青年が追いついてきた。青年は帽子をとり、すこぶる折目正しい口ぶりで切り出した。

「はなはだ失礼とは存じますが……少々おうかがいしたいことがあります……」

文字の大きさ 背景と文字の色

書誌情報
この作品の書誌情報を表示します。

目次・しおり・メモ
目次・しおり・メモを一覧で表示します。

本文検索
本文内から文字を検索します。

自動ページ送り
一定時間経過後に自動でページを送ります。

音声読み上げ
音声読み上げを開始します。

環境設定
文字サイズ、エフェクトの変更などを行います。

読み上げコントロール表示
読み上げコントロールを表示する

読み上げ速度
読み上げの速度を変更します。数値が大きいのほど早くなります。

- 文字の拡大は、単に紙を拡大するのではなく、画面サイズに合わせて改行され読みやすい
- 音声読み上げは、ブラウザの機能に依存する
- ナレーターによる音読資料や、ネイティブスピーカーによる音読資料も用意あり

（LibrariE & TRC-DLの例）

電子図書館とは（まとめ）

- ▶ インターネット上に図書館をつくるイメージ
- ▶ **リアルな図書館を電子に置き換えるものではない**
- ▶ 利用者はインターネット上の電子図書館にアクセスし、**借りて・読んで・返す**
- ▶ インターネット環境とパソコンやスマホさえあれば**どこでも・いつでも読書ができる**
- ▶ 「図書館」のため、同時貸出は1冊につき1人まで（読み放題の資料を除く）
- ▶ 資料は貸し出し期限が来れば自動的に返却されるので**返し忘れが無い** → **督促業務も無い**
- ▶ **動画、音声**が再生でき、**電子書籍**ならではの**楽しみ方や学習方法**ができる
- ▶ **本文検索ができる**ため、「こんな本を読みたい」にすぐに応えられる
- ▶ リアルの図書館とは違い、**表紙絵が並んで見える**ので若い人も興味を惹きやすい
- ▶ 文字の拡大・白黒反転・読み上げ等、読書バリアフリー対応に向いている

電子図書館とは（その他）

- ▶ リアルの図書館とは別のIDを発行して管理
- ▶ 電子専用に「同時に〇冊まで、〇週間貸出」を定める（リアルの図書館とは分けて管理）
- ▶ 督促業務、資料の汚破損の心配、蔵書スペースが不要
- ▶ 資料は「**ライセンス販売型（買いきり型）**」と「**期間や回数の限定型**」がある [※のちほど説明](#)
- ▶ 資料の価格（コンテンツ利用料）は紙の本に比べ3～4倍（単価3,000～5,000円）
- ▶ 資料費とは別に**システム導入費・システム利用料（ランニングコスト）**がかかる
- ▶ 自治体単位で契約するため、利用者数の大小で契約金額は変わらない
- ▶ 導入時には国の財政支援あり（「**新しい地方経済・生活環境創生交付金**」初年度のみ50%）

電子図書館の資料

※電子図書館で貸し出す書籍は、各電子図書館が、その**ライセンス**を購入します

ライセンスの種類		
ライセンス販売型	有効期間、貸出回数の制限がないライセンス。 1冊の購入で同時貸出は1人です。	電子図書館システムを使っている間は 無制限に使用できる
期間限定型	定められた有効期間の間、利用可能なライセンス。 1冊の購入で同時貸出は1人です。	購入して2年が到達した時点でライセン スが消滅する
期間限定・回数限定型	定められた有効期間と貸出回数の間、ライセンスが利用可能です。 1冊の購入で同時貸出は1人です。	購入して2年または52回貸し出した時 点でライセンスが消滅する
期間限定型マルチライセンス	一定期間に同時に複数貸出が可能なライセンスです。 貸出回数制限もありません。(旅行ガイドほか)	1年間読み放題 同時アクセスが可能

電子図書館の導入により何をを目指すのか



◆ 誰ひとり取り残さない図書館サービスを行う（読書バリアフリー）

必要な情報に**誰もが**アクセスできる機会を提供する

紙の本を読めない人、文字を読むことが困難な人にも情報を得る機会を提供

= **障がい者だけではない**(高齢者や図書館への来館が難しい人も)

◆ GIGAスクール端末を有効活用し、読書の習慣づけを狙う

小中高生に親和性が高いデジタルを活用し、読書の選択肢を増やす

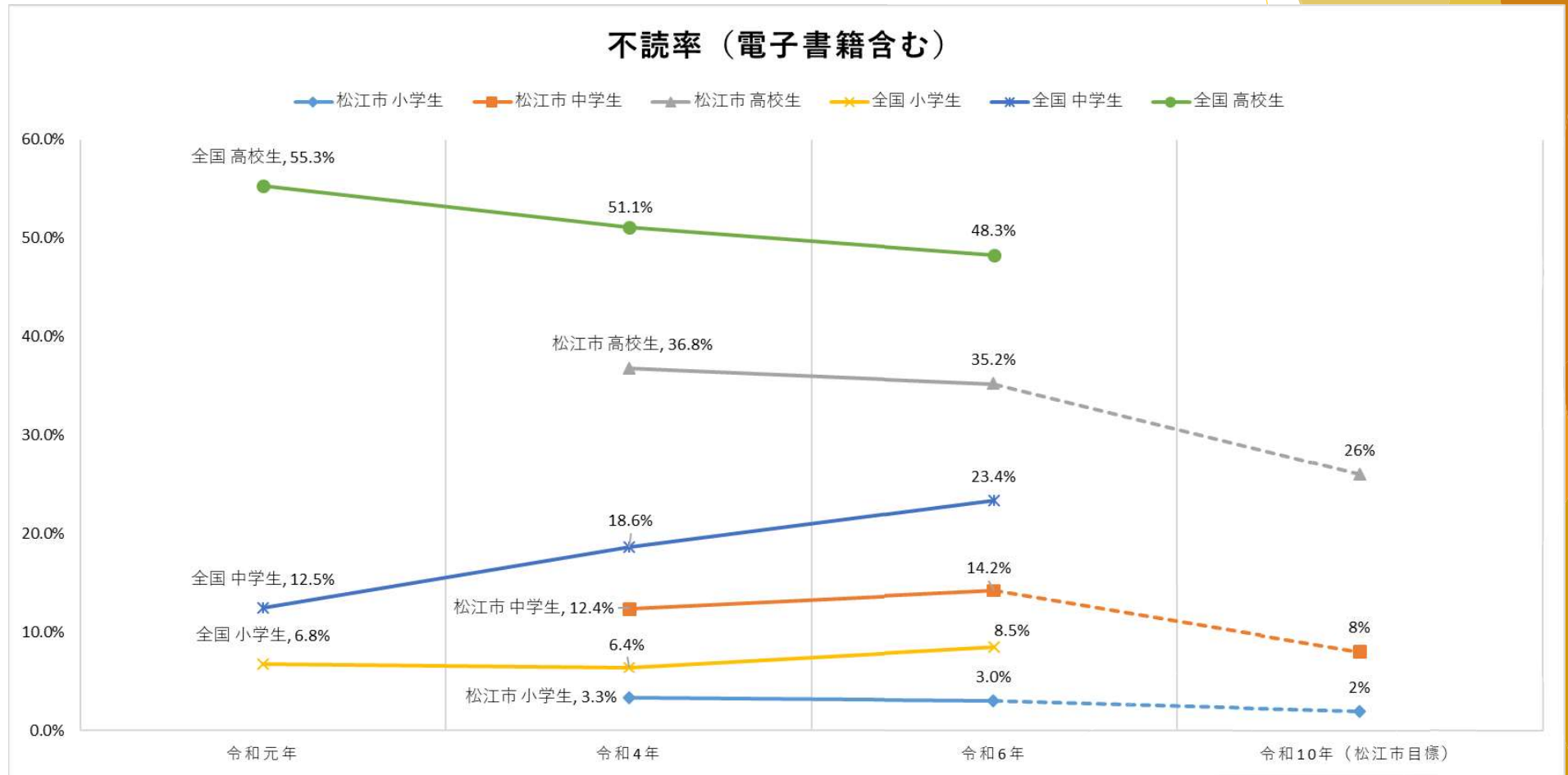
学校と連携し、読書の習慣づけ = **学校連携**

◆ 情報リテラシー教育を行う

デジタルでの正しい情報を調べる方法を**生涯にわたって教育**

こどもに対しては学校教育課が進める「メディア教育」と協力

不読率の現状



関連法令・国の通知等

- **「読書バリアフリー法」**（令和元年6月28日施行）
障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるよう読書環境を整備する。 地方公共団体：**努力義務**
- **「子どもの読書活動の推進に関する法律」**（平成13年12月12日施行）
すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行えるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。
- **「文科省事務連絡」**（令和4年8月2日）
GIGAスクール端末を用いて、ICTを用いた新しい学びが全国で開始されている。
「学習センター」「情報センター」としての学校図書館の積極的な利活用を求めるとともに、学校設置者と図書館担当部局が連携して取り組んでいる**先進事例**を紹介。**同様の取組**の実施について**積極的に検討することを要請**。
- **「松江市障がい者差別解消条例」**（令和6年4月1日改正施行）
市は障がいの状態に応じた手段及び方法により、情報提供をしなければならない

関連する計画等

▶ 松江市教育大綱

3 総合文化センターを拠点とした文化振興と読書活動の推進

・松江市総合文化センターを文化振興の拠点施設として、市民が芸術文化に触れる機会を創出するとともに、芸術文化活動の実践の場を提供します。

・学びの拠点である市立図書館が、市民のすべてのライフステージに対応できる、利用しやすく、居心地の良い図書館となることを目指し、利用環境の整備を進めます。

▶ 第3 次松江市子どもの読書活動推進計画

2 取組方針

(1) 不読率の低減

就学前からの読み聞かせの促進や学校における探究的な学習活動での図書館の活用促進、「読書週間」等による啓発の強化を図るとともに、子どもの意見聴取の機会を確保し取組に反映する等、子どもの視点に立った読書活動の推進を行うことにより不読率の低減を図ります。

(2) 多様な子どもたちの読書機会の確保

令和元年に施行された「読書バリアフリー法」を踏まえ、障がいのある子ども、外国にルーツがある子どもなど、多様な子どもに読書機会を提供するための環境を整備します。

(3) デジタル社会に対応した読書環境の整備

国の GIGA スクール構想による学校の ICT 環境の整備等、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、市立図書館の電子書籍サービス導入の検討、学校でのタブレットによる読書支援の検討、視覚障がい者等向け音声データの提供、図書館システムの利便性の向上などデジタル化を図ります。

他市の導入状況

2025年4月1日現在の電子図書館導入率

全国 33.1% (591/1,788自治体)

都道府県 61.7%

政令市 90.0%

市 46.8%

町 15.2%

村 26.2%

中核市 66.1% (41/62市) ※外 R7年度開始予定1市

未導入自治体のうち
「導入予定」 or 「導入を検討中」
52.6%

中国地方：鳥取県立、広島県立、岡山県立、山口県立、鳥取市、呉市、福山市

県内：浜田市、出雲市（R7年度稼働開始予定）

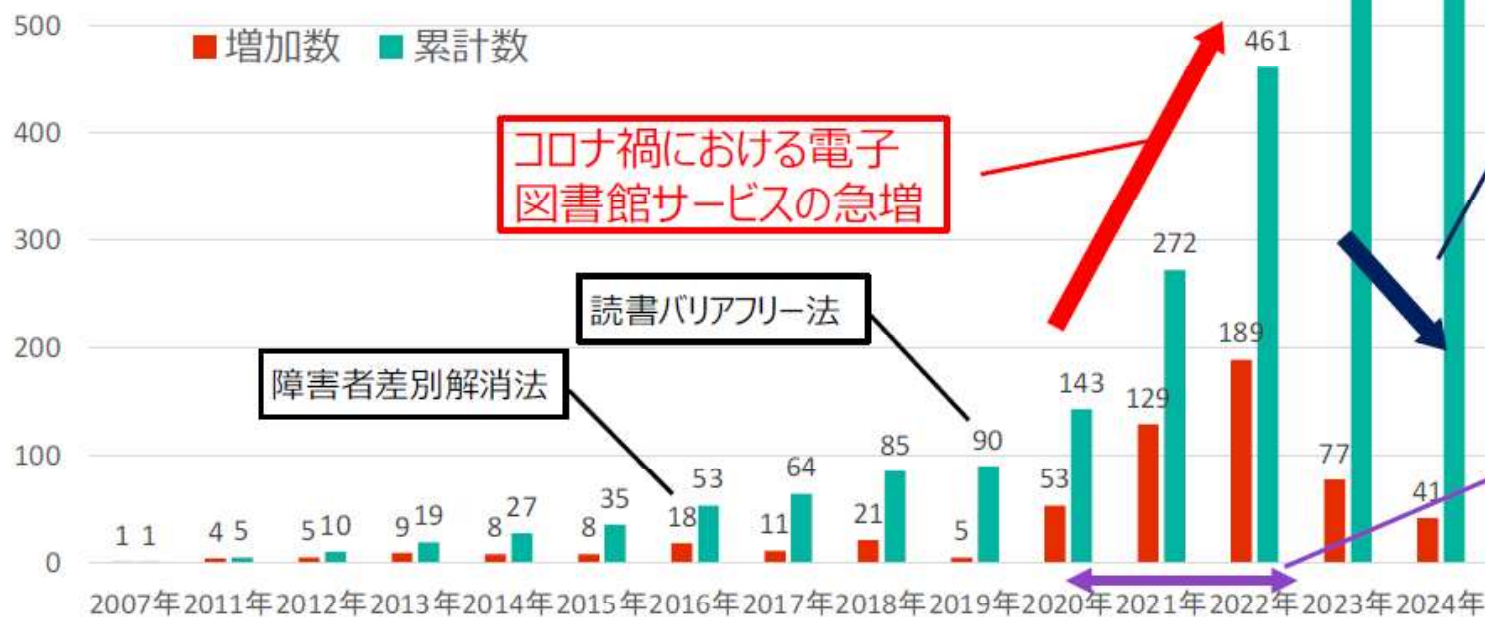
全国の導入状況

電子図書館・電子書籍サービス調査2024（速報）

植村八潮、野口武悟、長谷川智信、電子出版制作・流通協議会

2013年より毎年調査、2024年版 2025年2月発行予定

公共図書館中央館1,394館/電子図書館のみのうち、1,159館中回答737館（回答率63.6%）



伸びは鈍化した但未導入自治体でも導入意向は強い。今後、広域連携による町村が増える可能性

新型コロナウイルス対応地方創生交付金

学校との連携とは

- 市立図書館が電子図書館を運用し、学校教育現場でも活用すること
- 市立小中学校の児童生徒に「児童生徒専用ID」を配布（中学校卒業年度末に自動的にIDが失効する）
- 中学生までは「専用ID」と別に「一般ID」を持つことも可能
- 「ひとり1台端末」を用いて朝読書の時間、授業、宿題等に活用
- 複数人が同時にアクセスできる必要があるので「読み放題」の資料を活用
- 学校以外の場所や「ひとり一台端末」以外でも、インターネット環境があれば利用が可能
- 授業ではスクリーンに投影したり、英語のリスニング等にも利用可能
- IDには学校や学年を判別するコードが含まれており、細かい統計が取れる
- 高校生以上は「一般ID」に切り替えることで継続して利用可能
（高校生の利用率を保つためには一般IDへの移行支援が必要）

先進地の例

◆ 東大阪市 （途中から学校と連携）

令和3年4月 電子図書館導入

令和3年7月 市内の全小・中学生約33,000人にIDを配布（＝学校連携）

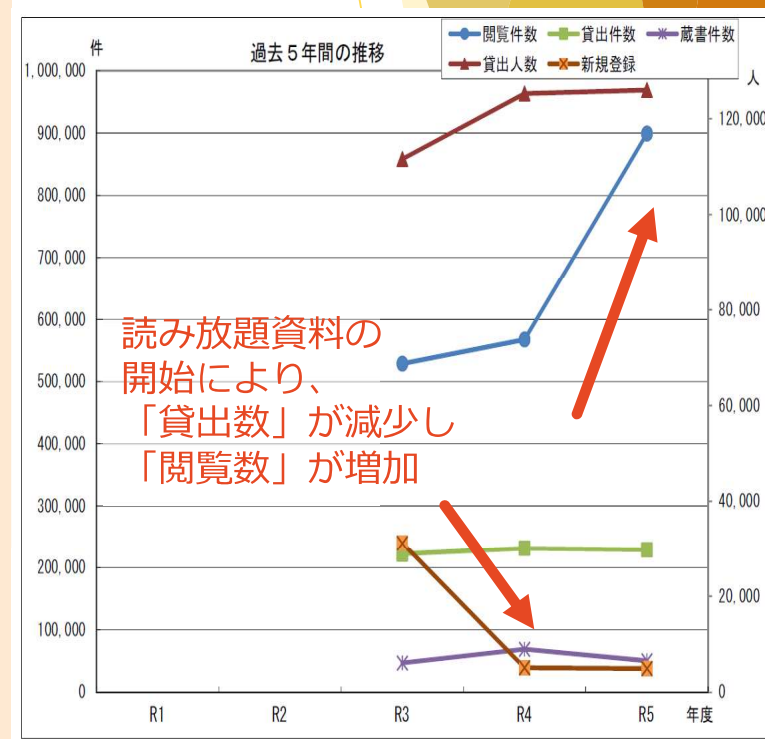
当初はひと月に約4千～6千件の貸出数だったが、

学校連携後はひと月2万件に増加。

「朝読書」等を活用し、児童生徒に利用を勧めたところ、昼休み等に自主的に利用するこどもが増えた。電子書籍への興味の高さが明確に現れた。

一方、当初は読み放題パックを導入しておらず、「貸し出し中で読めない」事例が多発したため、読み放題の資料を充実させたことで、大幅に利用数（閲覧数）が増えた。

また、電子図書館にない本を読むために、保護者と市立図書館で紙書籍を借りるというきっかけにもつながっており、双方に良い効果が出ている。



出典：東大阪市立図書館年報（令和5年度統計）

先進地担当者コメント

◆ A市（学校との連携あり）

「読み放題パック」実績（24週） 契約費用：約43万円

電子書籍の閲覧ベスト30の書籍単価×閲覧数（高い貸出率）＝約4300万円（100倍）

紙書籍の貸出ベスト30の書籍単価×24（週に1回として）＝約200万円

この試算は、「拡がり」のバロメーターを図るものとしては有効だが、「深さ」は紙の本の貸し出しほどではないだろう。しかし、これだけの**拡散力は従来の紙の本による閲覧や貸出では考えられない単位**であり、**多くの子どもに読書を勧める手法として抜群の効果を期待できる。**

◆ B市（学校との連携あり）

電子書籍は手軽さが売りで、紙書籍とは単純に比較できないが、児童・生徒に貸与されている一人一台タブレットを通して、**紙書籍では到底ありえない進度で普及・拡散**しており、**これほど多くの子ども達が読書にいそしんでいる実態**を鑑みると、**読書力向上に有能に機能していると言えるだろう。**

◆ C市（学校との連携なし）

リアルの図書館と同じくバランスよく選書。蔵書の新鮮さを保ったり、トップ画面に表示する内容を更新する必要がある。**当初想定した以上に手間がかかるが、想定以上に利用者が少ない。**

電子図書館導入に向けての方向性（メインターゲット）

先進地の例から

単なる『公共図書館の電子版』では
効果が上がらない



読書に困難を抱える人や子ども達を中心に

積極的に推進

「読書バリアフリー」と「学校との連携」

3.3.12 電子書籍サービス導入後の感想（回答：導入館 374 館）

「電子書籍サービス」を導入している図書館に、サービス導入後の感想をたずねた（図表 3-23）。

結果は、「計画（予想）よりも、利用者が少ない」171 館（45.7%）という回答が多く、「電子書籍サービス」の利用者を増やすための取り組みが必要であるといえる。

「その他」には、「学校連携を行ったことにより利用者が増加した」という回答が 6 館あり、利用者の増加・定着には児童生徒の利用がポイントであるといえる。また、具体的な目標数値の設定は行っていない図書館も 4 館あった。

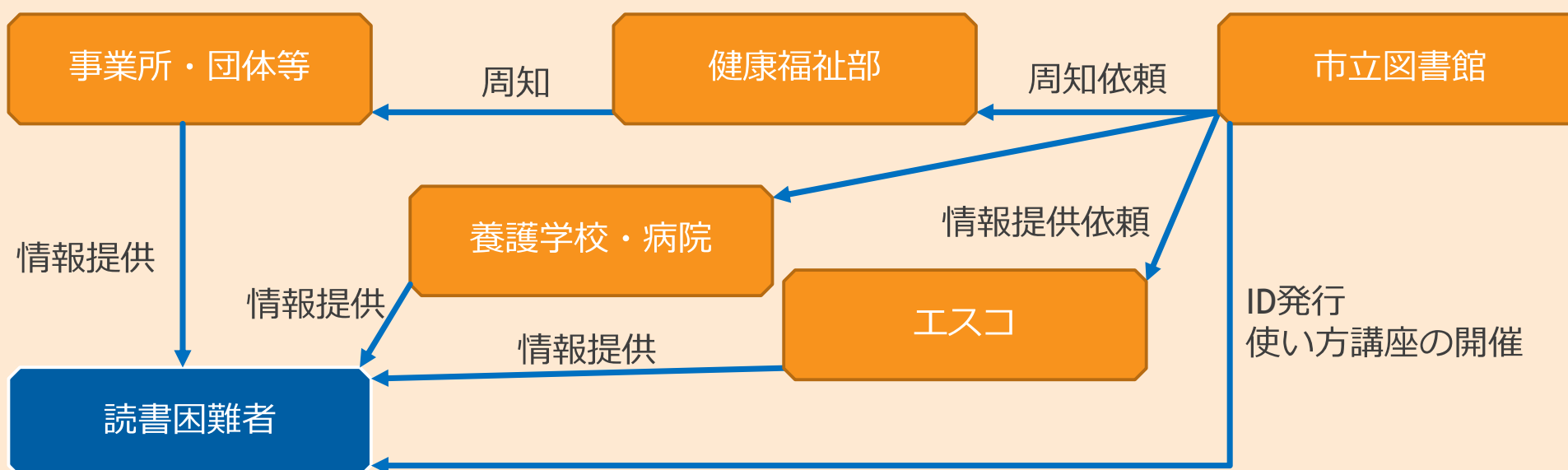
多くの図書館はコロナ禍をきっかけに「電子書籍サービス」を導入しているが、それが落ち着いてからは、児童生徒に与えられた 1 人 1 台端末の有効利用としての「電子書籍サービス」の利活用に課題の中心が移ったといえる。

図表 3-23 電子書籍サービス導入後の感想（回答：導入館 374 館）

質問（複数選択可）	2024 年 回答数	/374	2023 年 回答数	/325
(1) 計画（予想）よりも、利用（利用者）が多い	59	15.8%	50	15.4%
(2) 計画（予想）通りの利用数である	79	21.1%	72	22.2%
(3) 計画（予想）よりも、利用（利用者）が少ない	171	45.7%	160	49.2%
(4) その他	42	11.2%	36	11.1%
無回答	29	7.8%	14	4.3%
合計	380		332	

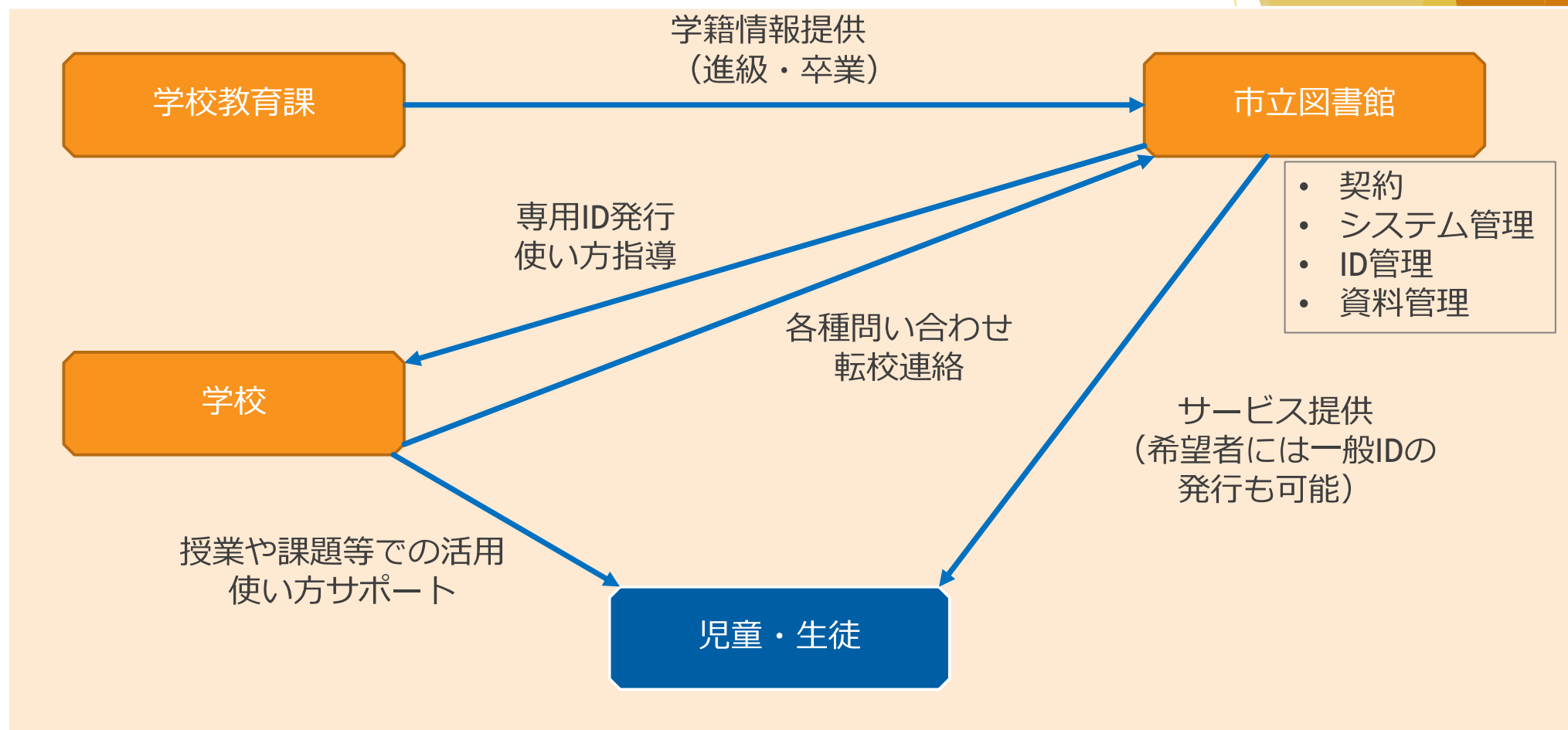
出典：電子図書館・電子書籍サービス調査報告書2024
(一社)電子出版制作・流通協議会

読書困難者へのアプローチ方法（読書バリアフリー）



- デイジー図書やサピエ図書館に代わるものではなく、選択肢を増やすもの
- 養護学校や病院、身心障がい者、高齢者等をサポートする事業所・団体等へ周知
- 公民館やイベント等で電子図書館の使い方講座を開催

学校との連携方法（市立小中・義務教育学校）



こども達へのアプローチ

- **小さいうちは紙の本**で言葉に親しみ、**五感で言葉を感じ、想像力を養う読書体験**が大切
- 年齢が上がるにつれて、ネット情報に踊らされない**「正しい情報を調べる力」**を身に着ける**必要性が高まる**
- 紙と電子の両方の良い点を生かし、各自がベストな形での読書方法を見つけられる環境を整える
→ 「紙か電子か」ではなく、**「紙と電子」のベストミックス**



電子図書館における資料の選書

◆ 市立図書館が選書権を持つ（学校教育課 学校図書館支援センターと協力）

電子のメリットを生かせるもの

- ▶ 文字の拡大や音声読み上げ機能が付いたもの ⇒ リフロー型資料※や外国語の絵本など
- ▶ 動画や音で理解を深められるもの ⇒ 動植物図鑑、音楽関連本など
- ▶ 書き込みや汚破損の恐れが大きく紙では所蔵しにくい物 ⇒ 問題集、学習参考書など

電子のデメリットを逆に利用する

- ▶ 時間の経過によって情報が古くなるもの
⇒ 実用書、雑誌、旅行本、年度版など情報の更新が早いもの

※リフロー型：画面の大きさや拡大率に合わせて自動的に文字の大きさが変わるもの。

電子図書館導入に向けての方向性（案①）

バリアフリー＆こども中心型

東大阪市、北広島市等 160自治体以上

<特徴>

- ・ バリアフリー対応とこども達への読書の習慣づけに重点を置く

<ID>

- ・ IDの発行対象は「松江市民」
- ・ 小学校5年生以上の市立学校の児童生徒には一括して専用IDを発行（中学卒業年度末に自動失効するため一般IDへ移行支援）

<コンテンツ>

- ・ 拡大や白黒反転等が可能なリフロー型、読み上げ、オーディオブック等
- ・ 目での読書が困難な人が利用しやすいもの
- ・ こども向けはターゲットは小学校高学年～高校生
- ・ 学校で活用しやすいよう読み放題パックを活用

<メリット>

- ・ ターゲットを絞って事業を展開でき、ジャンル毎にある程度の予算を確保できる

バリアフリー

- ・ リフロー型コンテンツ
- ・ 読み上げ対応コンテンツ
- ・ 多言語コンテンツ
- ・ オーディオブック

こども向け

- ・ 読み放題パック
- ・ 教科書に載っている本
- ・ 英語コンテンツ
- ・ 図鑑類
- ・ 紙で借りるのをためらう本
- ・ 問題集、参考書など

電子図書館導入に向けての方向性（案②）

バランス型

<特徴>

- ・ リアル図書館のように利用者を絞らない選書

<ID>

- ・ IDの発行対象は「松江市民」
- ・ 小学校5年生以上の市立学校の児童生徒には一括して専用IDを発行（中学卒業年度末に自動失効するため一般IDへ移行支援）

<コンテンツ>

- ・ リアル図書館のように色々なジャンルを全年齢向けに選書

<メリット>

幅広い層にサービスを提供できる

<デメリット>

「薄く広く」になり種類毎の資料費予算が減る
→「借りたい本が無い」状態になり利用が伸びない可能性

こども向け

- ・ 読み放題パック
- ・ 英語コンテンツ
- ・ 教科書に載っている本
- ・ 図鑑類
- ・ 紙で借りるのをためらう本

一般向け

- ・ 雑誌パック（読み放題）
- ・ 旅行本
- ・ 実用書
- ・ 紙で借りるのをためらう本など
- ・ オーディオブック

- ・ リフロー型コンテンツ
- ・ 読み上げ対応コンテンツ
- ・ 多言語コンテンツ

バリアフリー